

アカハタ釣り

海の安全推進アドバイザー 小野信昭

アカハタという魚をご存じでしょうか？ この魚、私が普段ボート釣りを楽しむ首都圏の海では以前は滅多にお目にかかることのできない魚のひとつでした。なのでアカハタを釣ろうと思ったら伊豆諸島や南伊豆などやや暖かな海まで足をのばす必要がありました。



近年、身近な海で釣れるようになったアカハタ



釣って楽しく、食べて美味しい魚です

しかしながら温暖化の影響なのか？ 5年ほど前から首都圏の海でもアカハタが釣れるようになってきました。棲息場所は水深5～30メートルの岩礁周り。比較的浅場で釣れることや、見た目が鮮やかで食味も良いことからたちまちロックフィッシュ(根魚)ゲームの代表的なターゲットとしてすっかり定着しました。そして今では専門に狙う遊漁船も増えてきました。

とはいえ、アカハタをはじめとしたハタ類は回遊魚とは異なり、移動が少ないので特定のエリアを集中して攻めてしまうとあっという間に付近一帯の魚影が薄くなり、場荒れが進んでしまいます。特に産卵前の魚体を釣り切ってしまうと子孫繁栄ができなくなり、壊滅状態となってしまうので節度ある釣りを心掛ける必要があります。

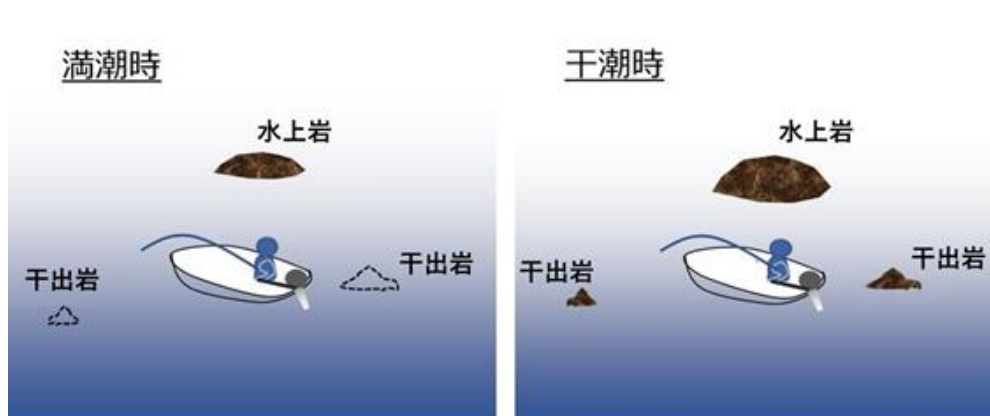
ボート釣りでは魚影が濃い場所を求めて、大きな釣り船が入ることのできない超浅場のポイントを狙うことがあります。

確かに場荒れしていないポイントなら好釣果に恵まれるかもしれません。

しかしながら、ココに落とし穴があるのです。

潮汐による干満差により、はじめは見えなかった岩礁がのちに水面から顔を出すことがあるのです。

大潮の日の干満差は5メートルに達することもあるからです。



潮汐差による岩礁の見え方

また浅場においては磯波が発生しやすく、それらに伴う海面の上下動が大きくなりやすいのでそれらに干満差に加わったら高低差はさらに大きくなることもあり、気が付かなかった暗礁等が現れるなどかなり危険な状況となります。

以上のようなことを踏まえ、浅場の岩礁地帯でアカハタ等のロックフィッシュを狙う場合には以下のことを注意しましょう。

- 付近一帯の水深、地形の把握
- 釣行当日の潮汐の把握
- 水深の常時チェック
- ボートが流される方向の洗岩、暗岩の有無チェック

浅い海域における乗り上げ、座礁などの海難が発生すると救助に駆け付ける船も近づきづらく、ましてや海況が悪化した中での救助は困難を極めます。



水深が浅いことを知らせる鉄柱